

株主のみなさまへ



第78期 決算報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日

contents

トップメッセージ	1
中期経営計画	4
ジャムコのビジネスアウトライン	5
Jamco News	7
新製品紹介	8
連結業績の推移	9
連結財務データ	10
平成29年度事業別営業概況	11
会社概況／事業拠点	13
株式の状況／株主メモ	14
特集 国内拠点のご紹介	裏表紙

株式会社 **ジャムコ**

証券コード：7408

経営理念

『士魂商才』

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



代表取締役社長 大喜多治年



平成29年度の決算について総括をお願いします。

A 平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の決算は、売上高は減少したものの増益となりました。

航空機内装品等製造関連においては、生産効率改善とコスト削減の取組みを進めると共に、777X型機向けラバトリーやA350型機向け後部ギャレーなど新規製品の開発製造を進めました。

航空機シート等製造関連においては、生産効率改善とコスト削減の取組みを進めると共に、次世代のスタンダードシートなど新型シートの開発製造を進めました。

航空機器等製造関連においては、炭素繊維構造部材及び航空機エンジン部品の生産性改善に取り組みました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、各種サービスの充実と収益改善の取組みに加え、新規品目の受注を進めました。

当連結会計年度の業績は、ボーイングが開発中の777X型機への移行の端境期を迎えた現行の777型機向けギャレー及びラバトリーの出荷減少の影響が大きく、売上高は前期に対して減少しました。一方、採算性の良いスペアパーツ販売や顧客仕様変更に伴う追加売上などが増加したことから、利益は前期に対して増加しました。この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高 77,791百万円（前期比 4,042百万円減）、営業利益 4,466百万円（前期比 2,334百万円増）、経常利益 3,504百万円（前期比 2,218百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益 1,681

百万円（前期比 667百万円増）となりました。

なお、剰余金の配当につきましては、1株当たり20円（連結配当性向31.9%）とさせていただきます。



平成30年度の見通しについてご説明ください。

A 当社グループでは、安定した収益確保に向けて事業基盤整備、試験研究の継続強化、生産性向上への設備投資を行ってまいります。

航空機内装品等製造関連においては、777X型機への移行の端境期による受注減少、為替の円高や受注価格の低下の影響が見込まれますが、アフターマーケットにおける受注拡大、787型機向け製品の月産14機への増産対応、777X型機向け製品の開発推進、コスト削減に向けた取組みを継続してまいります。

航空機シート等製造関連では、スタンダードシートの受注拡大、生産量増加への対応、サプライチェーンの最適化及び生産効率の改善により採算性の向上を図ってまいります。

航空機器等製造関連では、A380型機向け炭素繊維構造部材の生産量が減少するものの、その他エアバス機向け炭素繊維構造部材の生産量増加、航空機エンジン部品の受注が増加する見込みです。各種製品の受注拡大に努めると共に、炭素繊維複合材成型技術を内装品及びシート関連製品へ応用するなどの施策を進めてまいります。

航空機整備等関連では、飛行安全の確保と品質向上を基本に機体整

備の新規ビジネスに向けた取組みや海外顧客も視野に入れた装備品整備の受注活動を進め、MRO (Maintenance, Repair and Overhaul: 航空機の整備改造者) として、新たな事業モデルづくりを目指してまいります。

こうした状況を踏まえ、平成30年度の連結業績見通しは、売上高 81,900百万円、営業利益 3,110百万円、経常利益 2,680百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 1,800百万円を見込んでいます。なお、前提となる為替レートは、1米ドル当たり105円としています。又、配当につきましては、1株当たり20円 (連結配当性向29.8%) を予定しています。



最後に株主のみなさまへメッセージをお願いします。

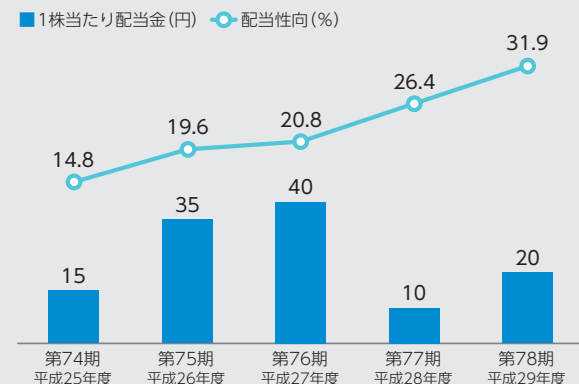
世界経済全体は堅調に推移しており、航空旅客需要の増大により航空機需要は引き続き着実に伸びると予想されております。一方では各国の内向き政策や通商問題或いは中東や東アジアの地政学的リスクにより不確実性が高まっており、為替の動向も不透明です。又、格安航空会社 (LCC) の攻勢などによる航空機業界の競争激化のなかで、サプライヤーに対する製造コスト、リードタイム削減に向けた要求は厳しさを増しています。こうしたなかで当社グループは、航空機内装品のリーディング・カンパニーとして生産効率改善とコスト削減の努力を続け、航空機需要増大の果実を享受し業容の拡大を図ってまいります。

株主のみなさまには、引き続き当社へのご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

利益配分に関する基本方針

経営基本方針と事業別方針のもと効率的経営を行い、収益の向上を図ることで株主のみなさまには安定かつ継続的に還元を行ってまいります。又、事業等のリスクの発現による不測の事態に備え、かつ将来の設備投資等の資金需要を勘案し、内部留保にも努めることが継続的成長にとって不可欠であり、このバランスを保つことが株主のみなさまへの利益につながるものと考えています。

この基本方針を踏まえつつ、平成27年度より、配当指標として「連結配当性向」を導入し、持続的な成長や事業リスクへの備えに必要な財務の健全性とのバランスにも配慮の上、当面の間の連結配当性向を20%~30%を目安に配当を決定してまいります。

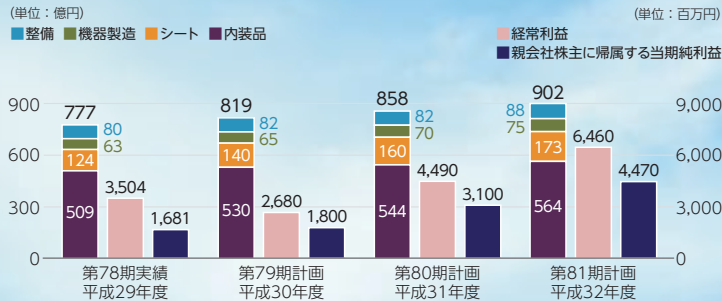


中期経営計画

中期ビジョン

航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

売上高／経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益（連結）

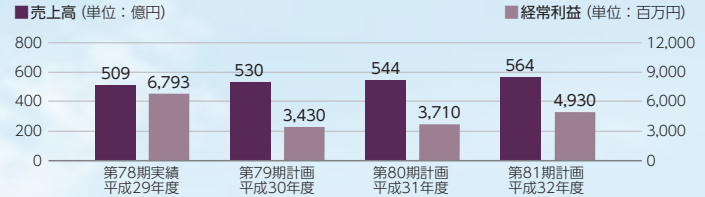


中期経営指標

	第78期	第79期 (計画)	第80期 (計画)	第81期 (計画)
連結経常利益率	4.5%	3.3%	5.2%	7.2%
ROA (総資産経常利益率)	3.7%	2.9%	4.9%	7.1%
ROE (株主資本当期純利益率)	6.0%	6.1%	10.0%	13.3%
自己資本比率	30.4%	32.6%	35.2%	38.5%
1株当たり配当額	¥20	¥20	-	-
配当性向	31.9%	29.8%	-	-
株価 (期末日)	¥2,242	-	-	-

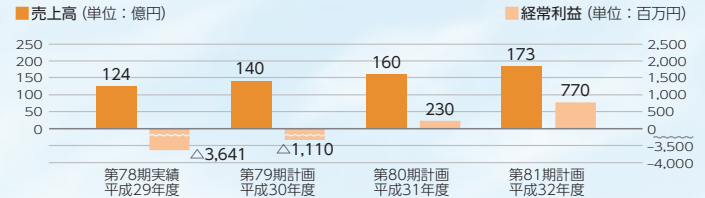
● 航空機内装品等製造関連

セグメント 売上高／経常利益（連結）



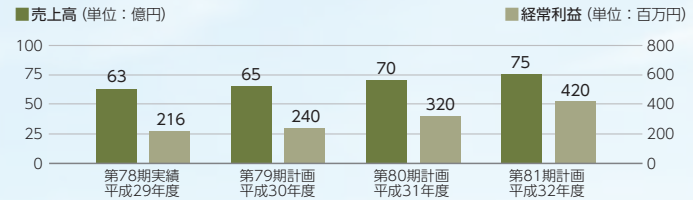
● 航空機シート等製造関連

セグメント 売上高／経常利益（連結）



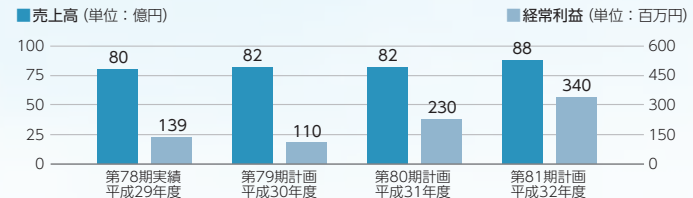
● 航空機器等製造関連

セグメント 売上高／経常利益（連結）



● 航空機整備等関連

セグメント 売上高／経常利益（連結）



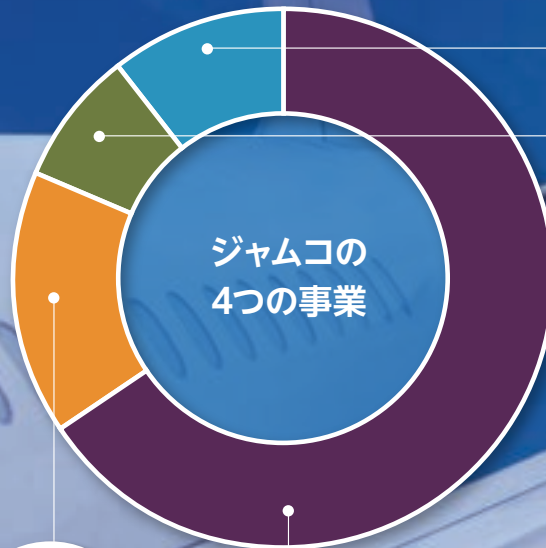
ジャムコのビジネスアウトライン

ジャムコは1955年、航空機整備会社として創業しました。その後、航空機を基軸に製造分野へと事業を発展させ、ギャレー（厨房設備）やラバトリー（化粧室）などの供給を通じて内装品の世界シェアを伸ばしてきました。2014年には旅客用シート事業にも本格参入を果たし、これまで培ってきた総合力と機体メーカーやエアラインからの信頼を糧に次代へ向けた成長エンジンへと発展させるべく注力しています。

2018年度からの中期経営計画で掲げた新たなビジョンに基づき、主力事業である航空機内装品製造事業に機器製造、航空機整備の能力を結集し、航空機内装品のリーディング・カンパニーを目指して、ジャムコはこれからもチャレンジを続けてまいります。

収益構造

(平成29年度連結売上高比率)



航空機整備等関連

10%



航空機器等製造関連

8%



航空機シート等製造関連

16%



航空機内装品等製造関連

66%



航空機内装品・
シート製造事業に見る「強み」

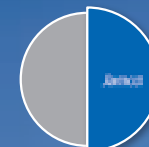
その
1 内装品の
世界シェア



ボーイング787ラバトリー



航空機ギャレー
約30%



航空機ラバトリー
約50%
(中大機：当社調べ)

航空機に特化した技術力とお客さまからの信頼を基盤に航空機内装品の分野で大きなシェアを獲得しています。

その
2 新たなデザインへの挑戦 ～快適のその先へ～



ジャムコでは従来の内装の概念にとらわれず、航空機のあらたな客室を創造する、革新的なコンセプトや機能を提案していきます。

プレミアムクラスシート

ファーストクラスシートとビジネスクラスシートにより構成。食事サービスや映画鑑賞など、さまざまなシーンで快適で安全な個室空間を表現しました。



左：革新的な機内の“おもてなし”を表現した航空機用厨房設備「Galley X」



右：未来の航空機用化粧室を提案した「Lavatory X」

その
3 確かな品質・納期



ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー2015

確かな品質・納期とサポート体制は数々の栄誉を与ってきました。ジャムコはこれからも新たなステージへと挑戦し続けます。



エアバス・サプライヤー・サポート・レイティング2016アワード

航空機による大気観測プロジェクト「CONTRAILチーム」 平成29年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰を「国際貢献部門」にて受賞

2017（平成29）年12月4日、「国際貢献部門」を受賞しました。当社航空機整備事業部では、CONTRAILプロジェクトにおいて、航空機に搭載する大気観測装置の開発と保守を担っています。2003年から、上空の大気を自動的に採取するASE（自動大気サンプリング装置）と、上空でCO₂濃度を直接測定する装置の設計・開発をおこない、FAA（アメリカ連邦航空局）やJCAB（国土交通省航空局）のSTC（追加型式証明）を取得しています。これらの装置は日本航空の航空機に搭載され、世界中を飛びながら大気観測をおこなっています。



CO₂は無色透明無臭であり、地球上でどれだけの量が発生しているのか解明されていないのが現状です。CONTRAIL以前の観測は地上や海上での観測やチャーター飛行機を用いたスポット的な上空の観測しか行なわれておらず、上空の測定データが極めて不足していました。民間航空機を活用したCONTRAILプロジェクトの発足により、「広範囲」「高頻度」「定期的」な測定が可能になりました。これらのデータは参画している研究機関から世界中に配信され、さまざまな研究へ活かされています。

当社は今後も継続的にCONTRAILプロジェクトに参画し、その活動を通じて社会に貢献していきます。

CONTRAIL: Comprehensive Observation Network for Trace gases by Airliner
の頭文字で「航空機による大気観測プロジェクト」を指します。

エアバスよりゼロ・コンセッション・アワード受賞

2017（平成29）年6月26日、スペイン ヘタフェにおいて、当社グループはエアバス社よりゼロ・コンセッション・アワード（Zero Concession Award）を受賞しました。

当社グループでは、エアバス機の垂直尾翼や世界初の総二階建て超大型機A380型機の二階床構造部材をADP製法（Advanced Pultrusion製法：炭素繊維複合材の連続成形製法）で製造・供給していますが、この度の受賞では、ADP製法の特徴である極めて安定した内部品質や寸法精度の高さによって製品供給のパフォーマンスを高く維持していることが評価されました。

当社グループは、今後ますます航空機への使用増加が見込まれる炭素繊維構造部材の研究開発に積極的に取り組むと同時に製品品質の維持向上に努めてまいります。



エアバス A350型機向け ICE リア ギャレーの初出荷

2018（平成30）年1月5日、A350型機向け ICE リア ギャレーを初出荷しました。

エアバス社は、かねてより一連のA350機内スペースの有効活用プログラム（ICE Program: Increased Cabin Efficiency Program）を推進してきておりますが、今回納品したギャレーもその一つで『ICE Rear Galley』と呼ばれます。このギャレーの利点は、後部ギャレー前方の2ユニット分のラバトリをギャレーの両側に組み込むことにより、空いたスペースに旅客用エコノミーシート6席を増席できることにあります。エアラインにとっては、シートの増席により旅客収入の増加が望めるわけで、新型機A350の魅力の一つにしたというのがエアバス社の思いです。



初出荷時の様子



A350 ICE Rear Galley

ビジネスクラス・シート「Venture」 KLMオランダ航空より ボーイング787型機向けに初受注

「Venture」シートは、ボーイング社との緊密な連携の下、「ボーイング・スカイ・インテリア」構想に美しく調和させたシートで、当社グループが次期ビジネスクラス・シートとして、独自に企画・開発した製品であり、次の特徴を有しています。



特徴

- フルフラット仕様で18.5インチの個人モニターなどの装備を有し、居住性と快適性を確保。
- 全席通路側スタイルを採用し、各席から直接通路へのアクセスが可能。
- 先進的なデザインと斜めに配置するヘリンボーン配列により、限られた客室内で、より美しく効果的な配置が可能。
- コンポジットを用いた一体成型による部品点数の大幅な削減（45%^{*}）により、環境への配慮と軽量化、整備性の向上を実現。

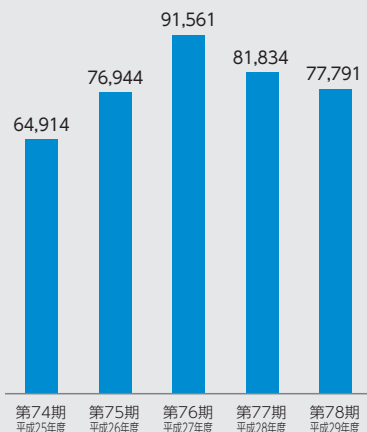
（※当社ビジネスクラス・シート製品比）



2018年4月、ドイツ・ハンブルクで開催された「エアクラフトインテリア・エキスポ 2018」にて当社はKLMオランダ航空向けの初受注の発表を行いました。世界中のエアラインに採用されることを目標としてきた「Venture」はこの受注発表により、関心に弾みを付けることができました。今後もシート事業拡大に向け、積極的にエアライン各社と商談を重ね商品・サービスの魅力を伝えることで、更なる受注活動に励んでまいります。

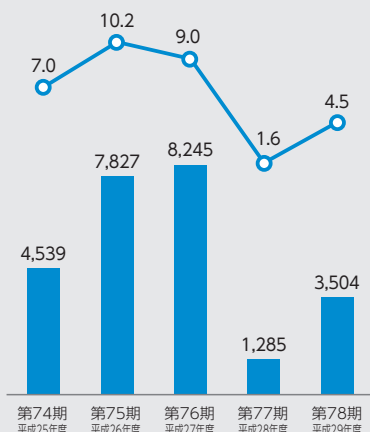
売上高

(単位：百万円)



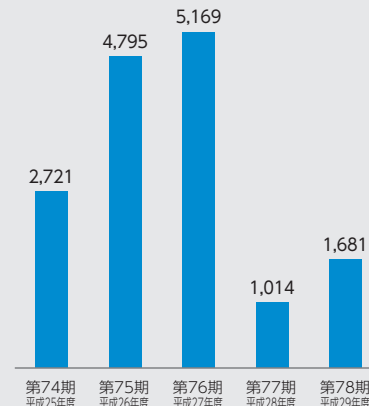
経常利益／経常利益率

■ 経常利益 (単位：百万円) ○ 経常利益率 (単位：%)



親会社株主に帰属する当期純利益

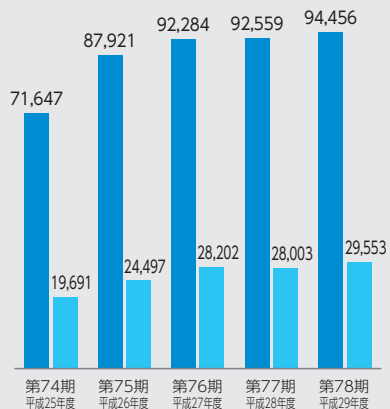
(単位：百万円)



総資産／純資産

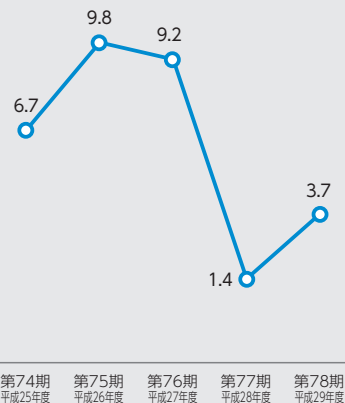
(単位：百万円)

■ 総資産 ■ 純資産



ROA (総資産経常利益率)

(単位：%)



自己資本比率／ROE (株主資本当期純利益率)

(単位：%)

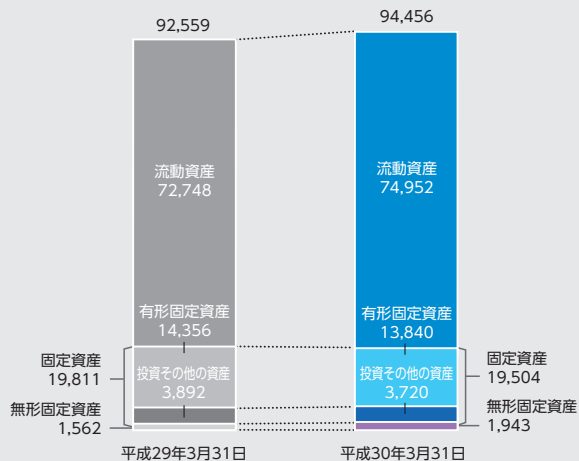
○ 自己資本比率 ○ ROE (株主資本当期純利益率)



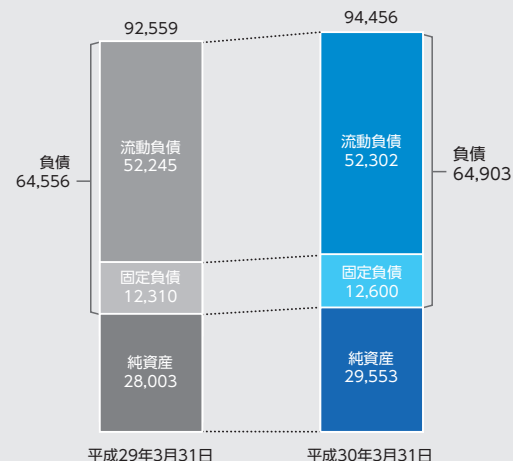
連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

資産の部

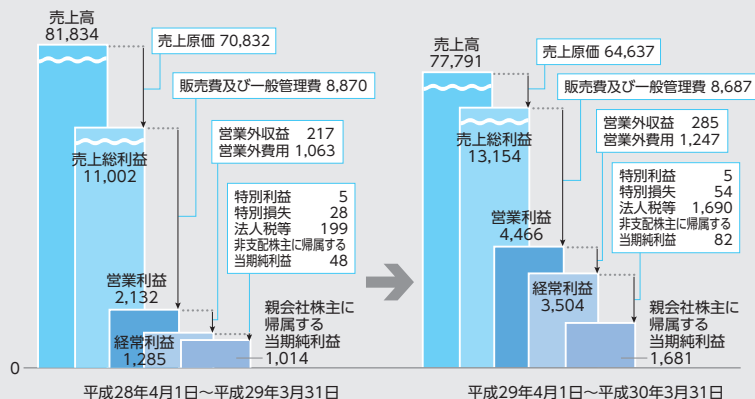


負債・純資産の部



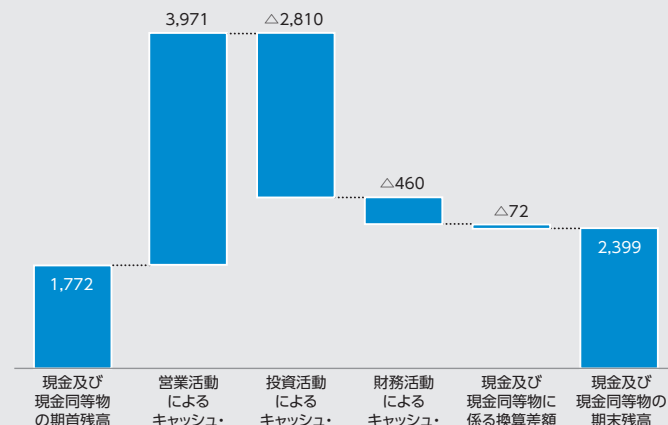
連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) 平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：百万円)



航空機内装品等製造関連

売上高／経常利益推移

売上高

509億92百万円

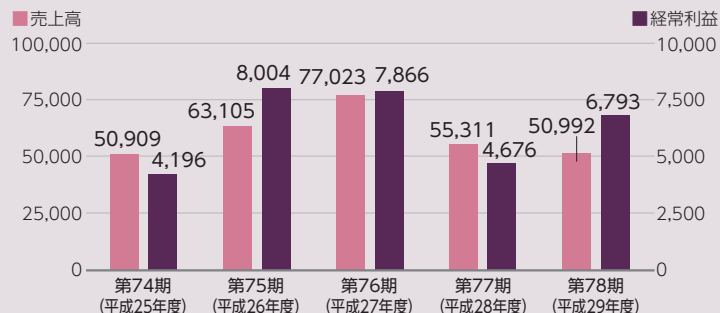
経常利益

67億93百万円



次世代ラバトリー・スペースX

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



※ 平成25年度から平成27年度までは、航空機シート等製造事業の経営成績を含んだ数値となります。

当期の概況

客室内装備の一括供給メーカー(トータル・インテリア・インテグレーター)を目指した事業戦略に沿い、新規品目及びアフターマーケットの受注拡大に向けた種々の施策を継続する一方、新造機向け内装品の開発製造、生産体制の効率化に努めてまいりました。

当期は、A350型機向け後部ギャレーの出荷を開始いたしました。当期の売上高は、ボーイングが開発中の777X型機への移行の端境期を迎えたことで現行の777型機向けギャレー及びラバトリーの出荷数の減少などで、前期に比べ減少しました。

一方、経常利益については、売上高減少の影響がありましたが、スペアパーツ販売の増加、顧客仕様変更に伴う追加売上、コストダウン施策による原価低減及び工事損失引当金繰入額の減少などにより、前期に比べ増加しました。

航空機シート等製造関連

売上高／経常利益推移

売上高

124億84百万円

経常損失

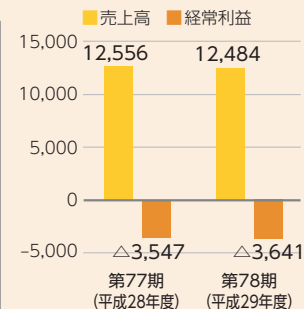
△36億41百万円



シンガポール航空向けA380型機用ビジネスクラスシート (写真提供：シンガポール航空)

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)

平成28年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席(シート)の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。



当期の概況

魅力的な製品開発による販売を促進する一方、安定した事業基盤と生産性向上の実現に向けて、コストマネジメントとサプライチェーンの強化に努めてまいりました。

当期は、シンガポール航空のA380型機向けビジネスクラスシートの納入を開始いたしました。また、787型機向けのプレミアムシートを発表するなど次世代のスタンダードシートの開発と販売を進めました。当期の売上高は、新規プログラムの製品出荷やシートの特等パーツ販売の増加がありましたが、一部プログラムの納期変更があり、前期に比べて減少しました。

経常損失については、生産効率の改善に努めたものの、新規プログラムの開発・製造工程における初期コストの増加などから経常損失となりました。

航空機器等製造関連

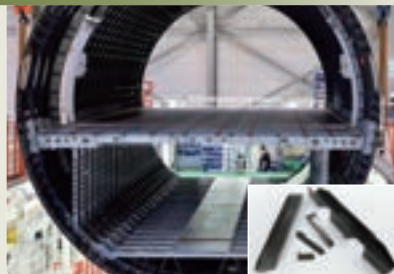
売上高／経常利益推移

売上高

63億12百万円

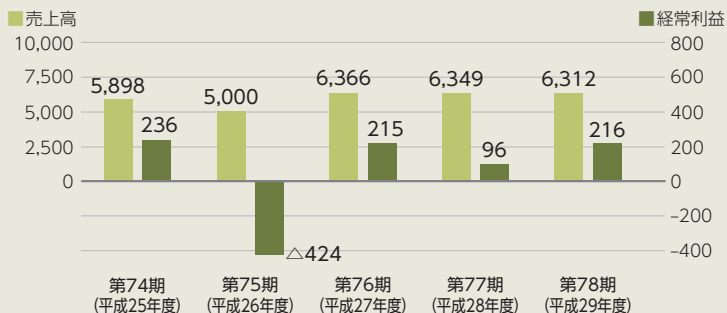
経常利益

2億16百万円



エアバスA350型機向け貨物室床下構造材
(写真提供：プレミアムエアロテック社)

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

防衛関連を中心とした熱交換器などの受注拡大に取り組むと共に、炭素繊維構造部材及び航空機エンジン部品等の生産体制の効率化に努めてまいりました。

当期は、航空機エンジン部品の生産は増加しましたが、A380型機の生産減少の影響等により炭素繊維構造部材の出荷が減少しており、前期に比べ売上高は減少しました。

一方、経常利益はA350型機向け炭素繊維構造部材の採算性改善や、航空機エンジン部品の生産効率改善などにより、前期に比べ増加しました。

航空機整備等関連

売上高／経常利益推移

売上高

80億2百万円

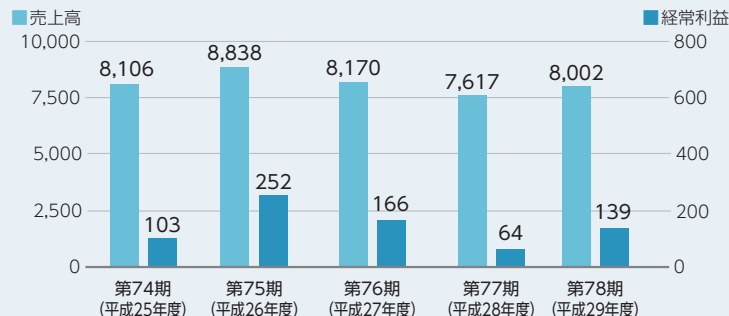
経常利益

1億39百万円



機体整備工場ハンガー (仙台) を背景に離陸するボンバルディア機 (写真提供：IBEXエアラインズ社)

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化、付加価値の高い新たなビジネスへの取り組みの強化に努めてまいりました。

当期は、リージョナル機整備の協定締結などエアラインビジネスへの取り組みを推進すると共に、装備品整備で新規品目の整備ビジネスを開始するなど、新たなビジネス展開へ向けた活動を進めました。

当期の売上高は、航空局飛行検査機の日常点検及び整備の契約終了や官公庁関係の一部機体整備の納期変更など完成工事が減少したことから機体整備では低調でしたが、装備品整備の生産は好調に推移したことから、前期に比べ増加しました。

経常利益については、既存の装備品整備の契約見直しの施策や新規品目の受注活動などを推進した結果、前期に比べ増加しました。

会社概況

会社概要 (平成30年3月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：3,087名 個別：1,197名

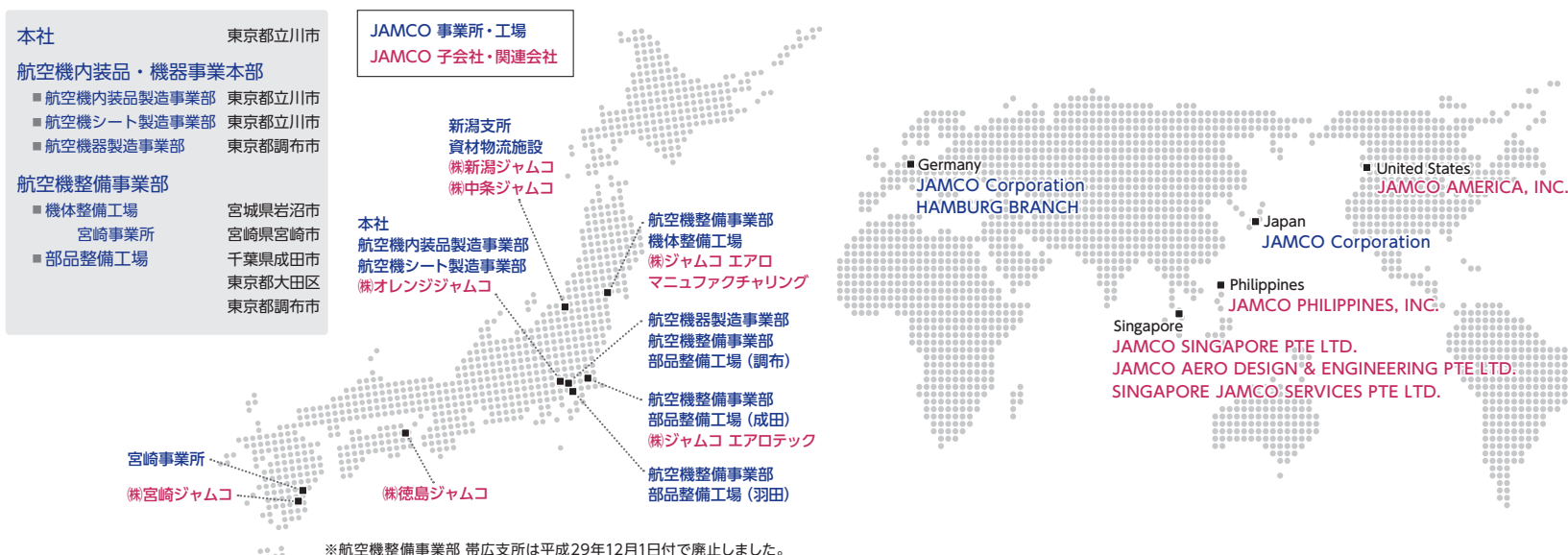
役員／執行役員 (平成30年6月27日現在)

代表取締役社長	大喜多治年	常務執行役員	青木 康成
代表取締役副社長執行役員	大上 克裕	常務執行役員	粕谷 寿久
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	市原 一義
取締役専務執行役員	加藤 正道	常務執行役員	西宮 和夫
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	伊田 幸男
取締役常務執行役員	田所 務	執行役員	内城 浩
社外取締役	大崎 直哉	執行役員	阿部 行雄
社外取締役	野口 利彦	執行役員	秋葉 英二
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	脇 昭博
社外取締役*	渡辺 樹一	執行役員	神山 行雄
常勤監査役	磯上 範好		
常勤監査役	大倉 敏治		
社外監査役*	河村 寛治		
社外監査役*	木須 芳紹		

*は、東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (平成30年3月末現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

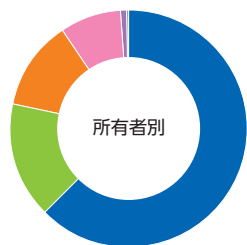


株式の状況 (平成30年3月末現在)

株式数・株主数・上場取引所

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	5,338名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード7408)

株式分布状況



その他の法人	62.59%	16,815,421株
個人・その他	15.82%	4,248,945株
外国法人等	12.41%	3,333,478株
金融機関	8.26%	2,219,400株
金融商品取引業者	0.77%	207,968株
自己名義株式	0.14%	38,762株

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	979	3.65
ジャムコ従業員持株会	391	1.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	311	1.15
BNYMSANV RE BNYMIL RE LF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
三菱商事株式会社	221	0.82
株式会社みずほ銀行	200	0.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	0.74

(注) 1.持株比率は自己株式(38,762株)を控除して計算しております。

2.株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日をもって名称を株式会社三菱UFJ銀行に変更しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることが出来ない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト (https://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

特集

『ジャムコを訪ねて』 — 国内拠点のご紹介 —

新潟 NIIGATA



新潟ジャムコについて

新潟県村上市は県北部に位置し、古い歴史と豊かな風土に育まれた文化を持つ自然豊かな城下町です。また、江戸時代からの塩引き鮭の産地として有名で、美味しい米と水に恵まれていることから全国的に知られるブランド銘酒を醸造する数々の酒蔵もあります。海沿いにある明治37年に石油試掘中に湧き出した瀬波温泉も、日本海を望む夕日が絶景で知られています。

地域性からか、仕事に対して着実に丁寧な気質がみられ、ものづくりに最適な地となっております。このような村上市で1989(平成元)年4月に創業した株式会社新潟ジャムコは、ジャムコグループ最大の生産工場として、安全なフライトと快適な空の旅を世界各国のお客様に提供すべく、日々業務に取り組んでおります。

「ジャムコグループの一員としてその生産技術で世界一を目指す」をビジョン、「生産の改善を迅速かつ継続して行い、最善のものづくりを追求する」をミッション、「自ら変化を起こす」をモットー、「柔軟、挑戦」をコアコンピテンスとしています。

主な生産品目は、航空機に搭載されるギャレー(厨房設備)、ラボトリー(化粧室)、及びボーイング787型機のcockpit内装品です。このような航空機内装品の壁材にはハニカムコアと呼ばれる蜂の巣状の素材が使用されています。新潟ジャムコでは、軽量化の要となるハニカムコアについても独自の技術を使い、社内で一貫生産しています。

また、新潟ジャムコは、航空・宇宙及び防衛産業における品質規格JIS Q9100:2016、JIS Q9001:2015(ISO9001:2015)の認証を取得しており、世界トップレベルの品質を誇っています。更なる品質・納期・原価の最適化を目指し、6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法)を基礎とした品質向上活動を実施し、世界での厳しいコスト、クオリティ競争に打ち勝つ競争力を維持できるよう、日々進歩を続けています。

顧客毎に異なる要求に応えるため、製品のほとんどが少量多品種生産ですが、そのクオリティは世界各国の顧客から高い評価を得ています。人の力を最大限引き出すため、流れ作業による組立などを導入し、常に工夫を重ね、近年ではスマートファクトリーを目指してITの活用を促進し、手順書等のデジタル化等、業務のシステム化を推進しています。

新潟ジャムコは、これからも世界一のものづくり工場を目指し、品質向上、納期厳守、原価低減に日々取り組んでまいります。



株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900(代表)
TEL:042-503-9146(広報・IR 経営企画部)

※ 本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。